

|                   |     |     |        |
|-------------------|-----|-----|--------|
| 開講期間              | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 前期                | 3   | 2   | 必修     |
| 担当教員              |     |     |        |
| 長田 律子、寺田 准子、兼田 啓子 |     |     |        |
| 木4                |     |     |        |
| 添付ファイル            |     |     |        |
|                   |     |     |        |

|        |  |
|--------|--|
| 科目の概要  | 住み慣れた地域で生活する療養者のQOLの向上に向けて、地域包括ケアシステムや地域の様々なネットワークを活用する意義や方法、在宅看護実践のために必要な知識と技術について事例を通して理解する。   |
| 授業の内容  | <p>第1回目 オリエンテーション、在宅看護の特徴と初回訪問<br/>シラバス、教科書第1章「訪問看護技術」を事前に読むこと</p> <p>第2回目 在宅看護介入時期別の特徴、在宅療養生活を支える基本的な技術1) 感染予防<br/>前回の復習を行い、第2章「5. 感染予防」を事前に読むこと</p> <p>第3回目 在宅療養生活を支える基本的な技術2) コミュニケーション・フィジカルアセスメント<br/>第2章「1. コミュニケーション」「2. フィジカルアセスメント」を事前に読むこと</p> <p>第4回目 在宅療養生活を支える基本的な技術3) 環境整備・生活リハビリテーション、移動移乗に関する在宅看護技術<br/>第2章「3. 環境整備」「4. 生活リハビリテーション」第3章「6. 肢位の保持と移動」を事前に読むこと</p> <p>第5回目 薬物療法と在宅看護1) 睡眠、医療ケアの原理原則・薬物療法・インスリン自己注射<br/>第3章「4. 睡眠」第4章「1. 医療ケアの原則」「2. 薬物療法」「13. インスリン自己注射」を事前に読むこと</p> <p>第6回目 食生活・嚥下における在宅看護と医療管理：在宅経管栄養法・輸液管理<br/>第3章「1. 食生活」第4章「4. 在宅経管栄養法」「5. 輸液管理」を事前に読むこと</p> <p>第7回目 清潔に関する在宅看護、医療管理：褥瘡管理・足病変のケア<br/>第3章「5. 清潔と更衣」第4章「15. 褥瘡管理」「16. 足病変のケア」を事前に読むこと</p> <p>第8回目 排泄に関する在宅看護と医療管理：排尿ケア・ストーマ管理・在宅CAPD管理<br/>第3章「3. 排泄」第4章「11. 排尿ケア」「12. ストーマ管理」「14. 在宅CAPD管理」を事前に読むこと</p> <p>第9回目 薬物療法と在宅看護2) ターミナルケア・疼痛管理・がん外来化学療法<br/>第2章「6. ターミナルケア」第4章「17. 疼痛管理」「3. がん外来化学療法」を事前に読むこと</p> <p>第10回目 事例でみる在宅看護1)<br/>脳血管障害患者の事例<br/>第6章「4」を事前に読むこと</p> <p>第11回目 ゲストスピーカー講座1)<br/>「認知症・終末期の在宅看護」<br/>これまでの授業を復習しておくこと<br/>第6章「1～3、5」を事前に読むこと</p> <p>第12回目 ゲストスピーカー講座2)<br/>「難病・小児の在宅看護」<br/>これまでの授業を復習しておくこと<br/>第6章「6、9」を事前に読むこと</p> <p>第13回目 事例でみる在宅看護2)<br/>中途障がい患者の事例<br/>第6章「7」を事前に読むこと</p> <p>第14回目 事例でみる在宅看護3)<br/>精神障がい患者の事例<br/>第6章「8」を事前に読むこと</p> <p>第15回目 まとめ<br/>今までの授業のまとめ</p> <p>定期試験</p> |
| 学習到達目標 | <p>①生活者として対象を捉え、在宅看護の特徴を踏まえた看護の必要性について理解できる。</p> <p>②在宅療養者の特性に合わせた日常生活援助について理解できる。</p> <p>③在宅で行われる医療技術援助について理解できる。</p> <p>④地域包括ケアシステムを理解し訪問看護の役割を理解できる。</p>  |
| 授業の方法  | <p>前半<br/>2年次に学習した在宅看護学概論の知識、春休みの課題を基に学習を行う。<br/>在宅看護に必要な在宅看護技術（日常生活技術、医療管理）について学ぶ。</p> <p>後半<br/>前半の講義内容を踏まえて学習を行う。<br/>ゲストスピーカー講座やケース事例を通し、生活者として対象を捉えた看護の展開を理解し、看護技術（日常生活技術、医療管理）や多職種連携の実際、訪問看護師の役割を学ぶ。</p>   |

|                           |  |
|---------------------------|--|
| 成績評価の方法                   | 試験80点、ゲストレポート10点（5点×2回）、授業参加態度10点  |
| 教科書・テキスト                  | ナーシンググラフィカ 在宅看護論②在宅療養を支える技術 臺有桂、石田千絵、山下留理子編  |
| 参考書                       | ナーシンググラフィカ 在宅看護論①地域療養を支えるケア 臺有桂、石田千絵、山下留理子編  |
| 授業時間外の学修について（事前・事後学習について） | 非常に広範囲の内容を15回で授業展開します。予習としてシラバスに指示されている内容や前回の授業資料を見直して参加するようにしましょう。授業後もノートをまとめるなど、毎回の授業前後がテスト対策となるように学習していきましょう。ゲストスピーカー講座を除いて毎回授業の初めに確認テストをします。 |
| 履修上の留意事項                  | 老年看護学や在宅看護学概論で学習した高齢者の身体的・精神的特徴、成人看護学や小児看護学で学習した治療看護を再度学習しておくこと。<br>日々、Aポータルをチェックし、変更等の連絡が無いかチェックしておくこと。   |
| オフィスアワー                   | 金曜日12時～13時、16時～17時<br>（4年生の実習指導のため不在であることが多いです。連絡後に来られることが望ましいです。）<br>授業全般については長田まで<br>ゲストスピーカー講座については寺田・兼田まで                                    |
| 課題に対するフィードバックの方法          | 共有すべき内容はAポータルや授業でフィードバックする。<br>個別についてはレポートのコメントやメール等で対応を行う。  |
| 実務経験                      | 長田：訪問看護師、訪問看護ステーション管理者<br><br>*ゲストスピーカー<br>訪問看護ステーション所長もしくは管理者   |
| その他                       | 在宅看護学演習と関連させて学習してください。   |